

おわりに

本書は二十世紀後半および二十一世紀アジアの人口問題を中心として、先進国、途上国の人口問題についても概説したものである。「アジアの人口——グローバル化の波の中で」というテーマで本書がとりあげられることができなかつた課題は少なくない。家族・世帯の状況、民族や宗教はいずれも重要な課題であるが紙幅の関係もあり割愛せざるを得なかつた。周知のとおり、アジアにおいて民族や宗教は多様性に富み、民族や宗教の差異が人口政策、ひいては人口動向に影響を与えている。

アジアは五一カ国・地域に及んでおり、可能なかぎり多数の国の状況を含むことを心がけたが、筆者の力量と紙幅の関係から南部・中央アジアや西アジアについての叙述が少ないことをお詫びしたい。

平成十五年科学研究費補助金を得て、タイと極東ロシアを訪問し、国際労働移動調査の機会を得た。本書で取り上げた情報や現地の写真は、その成果の一部である。研究代表

者の神戸大学・大学院経済学研究科助教授の中川聡史氏にこの場を借りて、深く感謝する次第である。

本書の執筆にあたって、日本女子大学元教授大友篤氏、日本貿易振興機構アジア経済研究所開発研究センター開発戦略研究グループ長の山形辰史氏、同バンコクセンター海外研究員の重富真一氏と久保田聡氏はじめ同僚各位より、さまざまな貴重なコメントやご指導、ご尽力を頂いた。記して謝意を表したい。

最後に、吉林大学人口研究所元所長の古清今氏、同大副学長の王勝今氏、同大北東アジア研究院副院長の尹豪氏、復旦大学人口研究所教授の王桂新氏、首都経済貿易大学人口研究所教授の黄荣清氏、中国人民大学人口研究所教授の喬曉春氏、廈門大学人口研究所講師の陳茗氏、台湾中央研究院教授蔡青龍氏は、中国や台湾の人口研究についてご指導、ご尽力頂いた。深甚な謝意を表したい。

二〇〇四年二月

早瀬保子

